

令和4年度

市政モニターアンケート調査結果
【 広聴について 】



長 崎 市
広報広聴課

1. 調査の目的

地域の問題や行政として取り組むべき課題を見極め、市民の皆さまと協働しながら、質の高い市政運営を行うために、市民の皆さまの声を聴取するとともに、いただいたご意見等にお応えする「広聴」機能の充実に努めております。

この広聴事業を通じて、市民の皆さまに市政運営に対する興味・関心、そして参画意識を高めていただくため、現状の把握をする調査を行いました。

2. 調査の概要

調査期間：令和5年2月1日～令和5年2月14日

送付数：276人（郵送モニター 202人 インターネットモニター 74人）

回答率：83.7%（231人）

（郵送モニター 171人 インターネットモニター 60人）

3. 調査結果

【市民の声の反映について】

長崎市の市政運営について、市民の声が反映されているか「分からない」と回答した人が52.6%と約半数を占めており、市民の皆さんの声をお聴きしながら市政運営を行っていることについて十分に伝わっていないことが分かりました。

また、「分からない」と回答した人を除くと、市民の声が「反映されていない」・「どちらかといえば反映されていない」と回答した人が48.6%でした。その理由として、「市民の意見に対して、どのように対応しているか分からない」と回答した人が81.1%と最も高く、また「市民が意見を伝える手段が確保されていない」と回答した人が52.8%と続いており、市が行っている広聴の取組み、市民の皆さんからの意見をどのように生かしているか等の情報発信が十分でないことが分かりました。

また、「市がどのような計画・取組みをしているか分からない」と回答した人も49.1%と高く、市民の皆さんから意見をいただくために、まずは市の取組みを理解してもらうための広報を充実させる必要があることが分かりました。

【市政運営への興味・関心、参画について】

市政運営に興味や関心が「どちらかといえばある」と回答した人が約半数の58.3%で、「ある」・「どちらかといえばある」を合計すると89.9%と高い割合でした。多くの方が市政運営に興味や関心を持っていることが分かりました。

市政運営に参画したいと「思う」・「どちらかといえば思う」と回答した人の合計は57.3%で、「思わない」・「どちらかといえば思わない」と回答した人の合計

42.7%とおよそ半々の結果でした。

「市政に興味や関心があり、市政運営に参画したいと思っている人」は54.0%で半数の人が市政運営に積極的な姿勢を持っていることが分かりました。

一方で、「市政に興味や関心があるものの、市政運営に参画したいと思わない人」が35.7%で、市政運営に実際に「参画する」ことに対して、抵抗感を感じている人が多くいることが分かりました。

【広聴制度の認知度について】

長崎市の広聴制度の中では「あじさいコール」が「知っている」・「利用又は参加したことがある」共に60%以上と高い割合となりました。一方、それ以外の広聴制度で「利用又は参加したことがある」が次いで高いのは「広報紙へのお便り」の20.0%で、「あじさいコール」と大きな開きがありました。

市民の皆さんからのニーズの高い「あじさいコール」については、引き続き様々な問い合わせにワンストップで対応できるよう対応の精度を高め、さらなる充実を図っていきたいと考えています。また、「あじさいコール」以外の広聴制度についても、利用方法を積極的に周知する必要があることが分かりました。

【市政への意見・要望等について】

市政への意見・要望は「電話、文書、メール等で担当課へ伝える」が53.9%と最も高いことが分かりました。

市民の声を市政に反映していくために、必要な取組みについては、広聴手段の拡充や、意見・要望への対応結果の公表、市の施策の周知など、多方面への取組みが必要とされていることが分かりました。

市民の皆さんに市政運営へ興味や関心を持ち、市政運営に参画したいと思ってもらえるよう、今後も広聴・広報を通じて、市民の皆さんとの良好なコミュニケーションを築いていけるよう取り組んでまいります。

4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

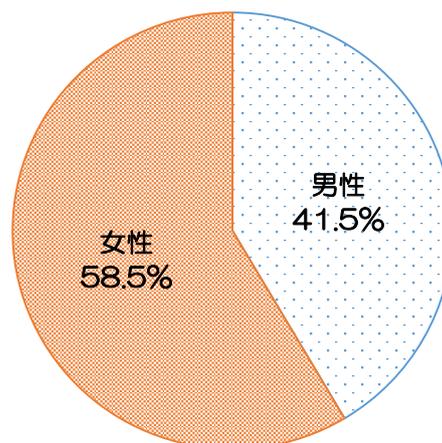
また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

問1 あなたの性別をお答えください。

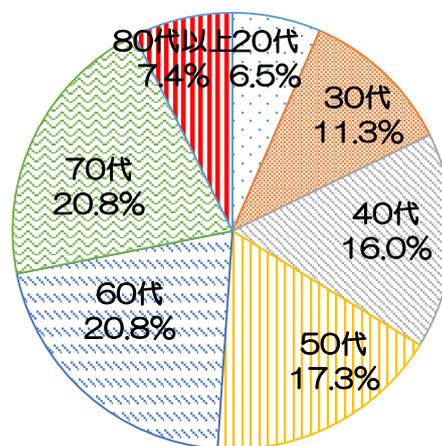
選択肢	回答者数	割合
男性	95人	41.5%
女性	134人	58.5%
合計	229人	100.0%

(無回答2人)



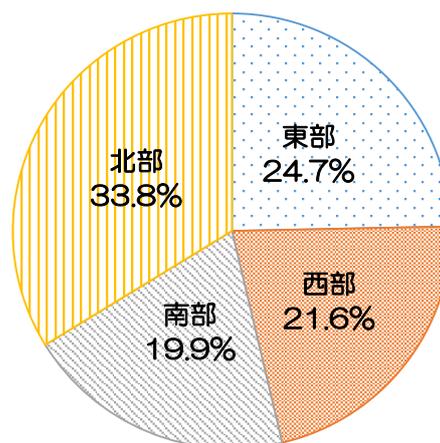
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択	回答者数	割合
20代	15人	6.5%
30代	26人	11.3%
40代	37人	16.0%
50代	40人	17.3%
60代	48人	20.8%
70代	48人	20.8%
80代以上	17人	7.4%
合計	231人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	57人	24.7%
西部	50人	21.6%
南部	46人	19.9%
北部	78人	33.8%
合計	231人	100.0%



※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

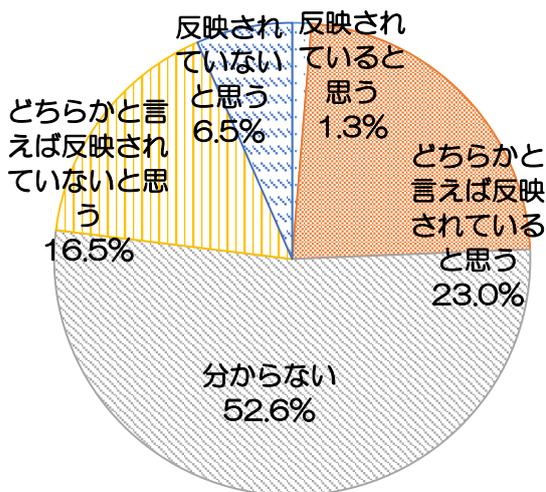
問 19 長崎市の市政運営について、市民の声が反映されていると思われますか。
 (当てはまるものを1つ回答)

選択肢	回答者数	割合	割合※	
反映されていると思う	3	1.3%	2.8%	51.4%
どちらかといえば反映されていると思う	53	23.0%	48.6%	
分からない	121	52.6%		
どちらかといえば反映されていないと思う	38	16.5%	34.9%	48.7%
反映されていないと思う	15	6.5%	13.8%	
合計	230	100.0%	100.0%	

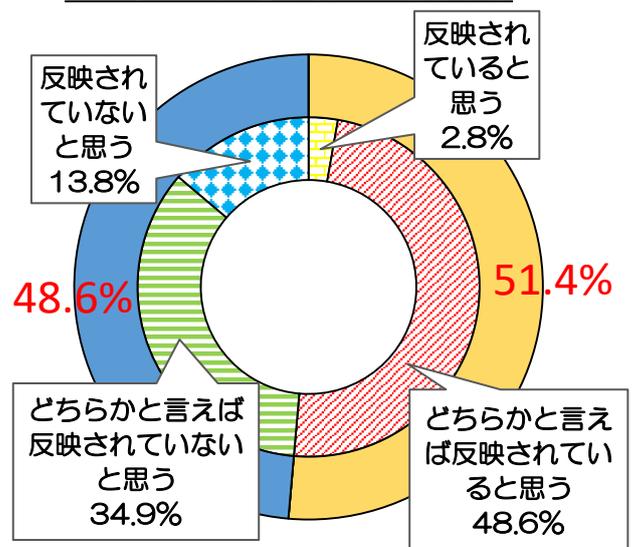
(無回答1人)

注「割合※」は、「分からない」を除く選択肢の回答割合

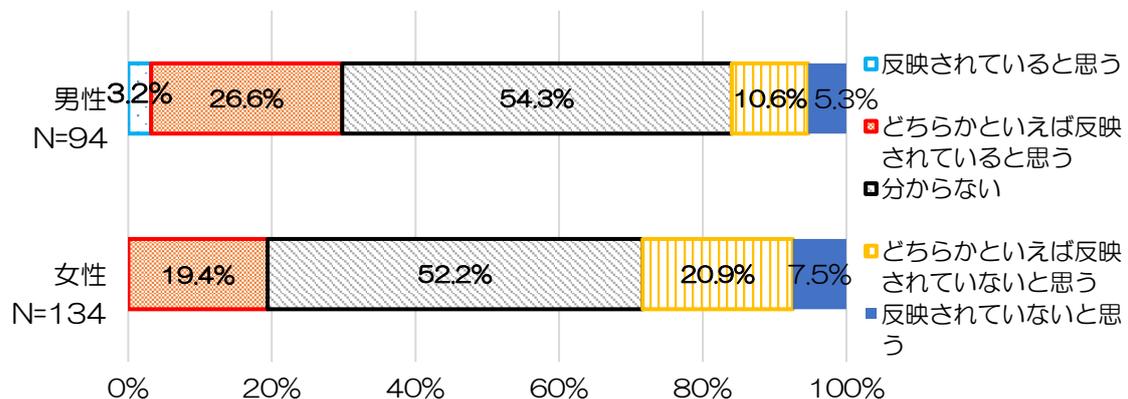
■「分からない」を含む回答割合



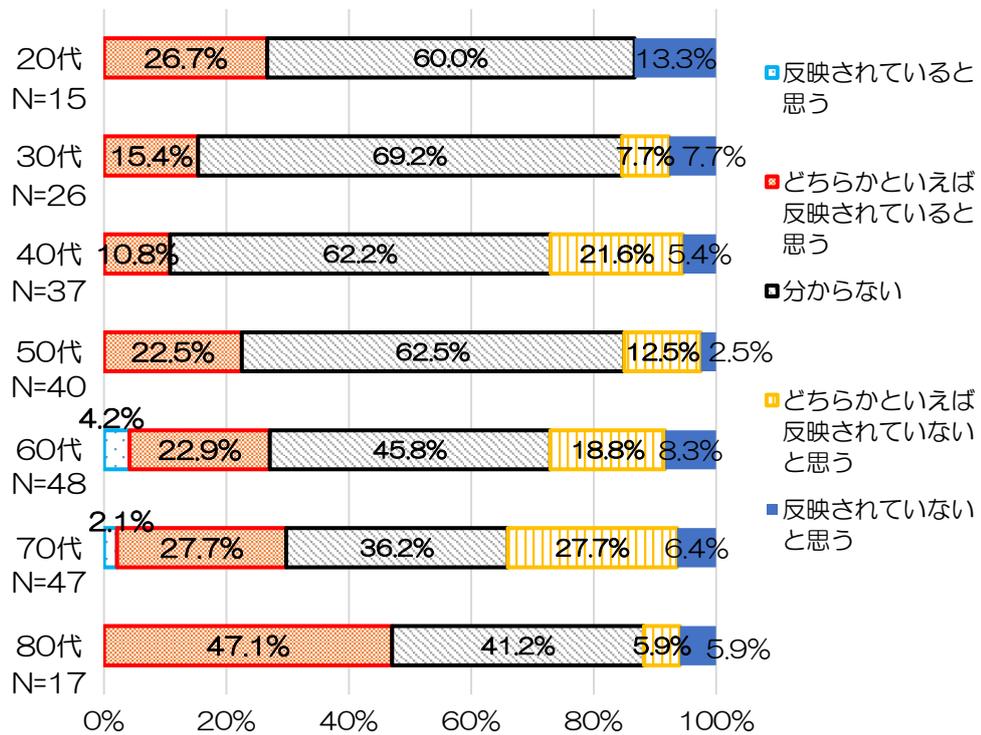
■「分からない」を除いた回答割合



<性別割合>



<年齢別割合>

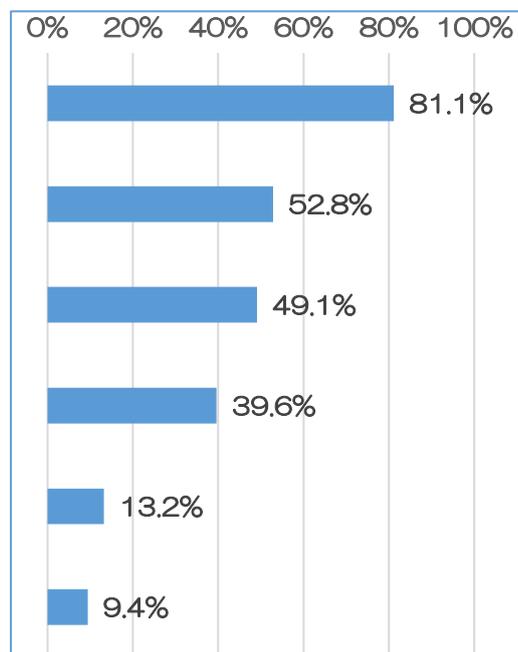


約半数の52%の人が「分からない」と回答しており、多くの人に市民の声が市政運営に反映されているか伝わっていないことが分かりました。

「分からない」と回答した人を除いた場合、「反映されている」と思っている人（「反映されていると思う」・「どちらかといえば反映されていると思う」の合計）は51.4%で、「反映されていない」と思っている人（「反映されていないと思う」・「どちらかといえば反映されていないと思う」の合計）の48.6%よりも割合がやや高いものの、半数近くの方が「反映されてない」と思っていることが分かりました。

問20 「問19」で「4 どちらかといえば反映されていないと思う」「5 反映されていないと思う」と回答された方に質問です。そのように思う理由について該当するものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	回答数	割合
市民の意見に対して、どのように対応しているのか分からない	43	81.1%
市民が意見を伝える手段が確保されていない	28	52.8%
市がどのような計画・取組をしているか分からない	26	49.1%
地域等に出向き、市民の声を直接聴いていない	21	39.6%
職員に意見を伝えても対応が遅い	7	13.2%
その他	5	9.4%



（回答者数 53 人、有効回答数 130）

※「その他」の意見

- ・どうせ変わらない
- ・町内空き地に放置バイクが数台あり処分をお願いしたが、1年経ってもなされていない
- ・意見が実現しない、具現化されていない所。

「市民の意見に対して、どのように対応しているか分からない」と回答した人が81.1%と最も高く、また「市民が意見を伝える手段が確保されていない」と回答した人が52.8%と続いており、市が行っている広聴の取組み、市民の皆さんからの意見をどのように生かしているか等の情報発信が十分でないことが分かりました。

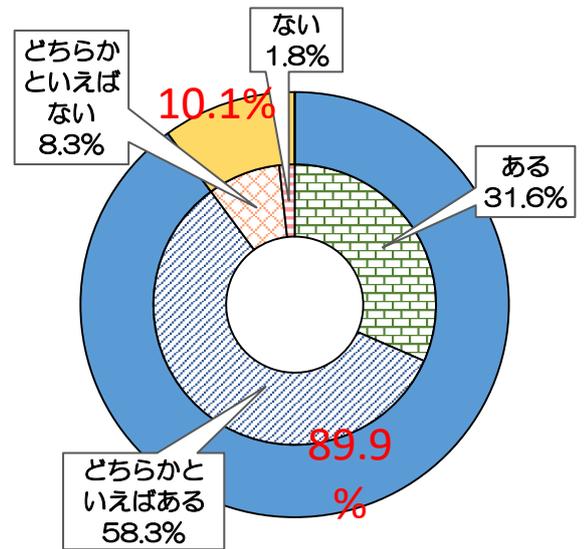
また、「市がどのような計画・取組みをしているか分からない」と回答した人も49.1%と高く、市民の皆さんから意見をいただくために、まずは市の取組みを理解してもらうための広報を充実させる必要があることが分かりました。

問 21 長崎市の市政運営に興味や関心がありますか。(当てはまるものを1つ回答)

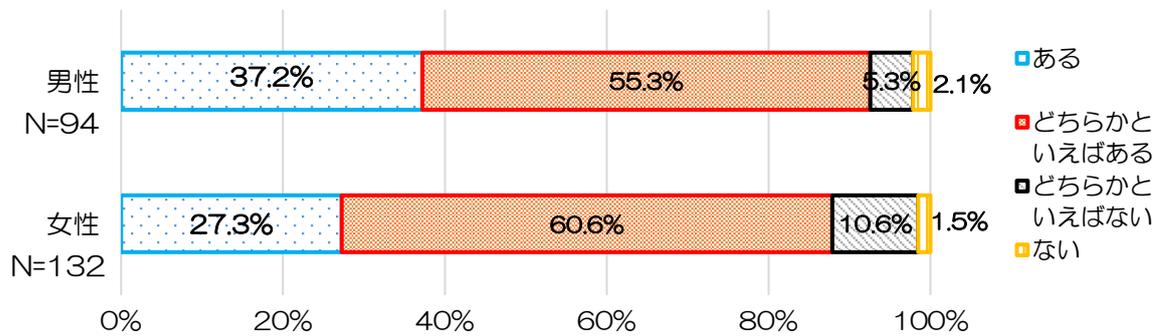
【市政運営とは：市が行うさまざまな分野の事業や取り組みのことをいいます。
分野例) 防災、福祉、環境、平和、観光など】

選択肢	回答者数	割合 (%)
ある	72	31.6
どちらかといえばある	133	58.3
どちらかといえばない	19	8.3
ない	4	1.8
合計	228	100.0

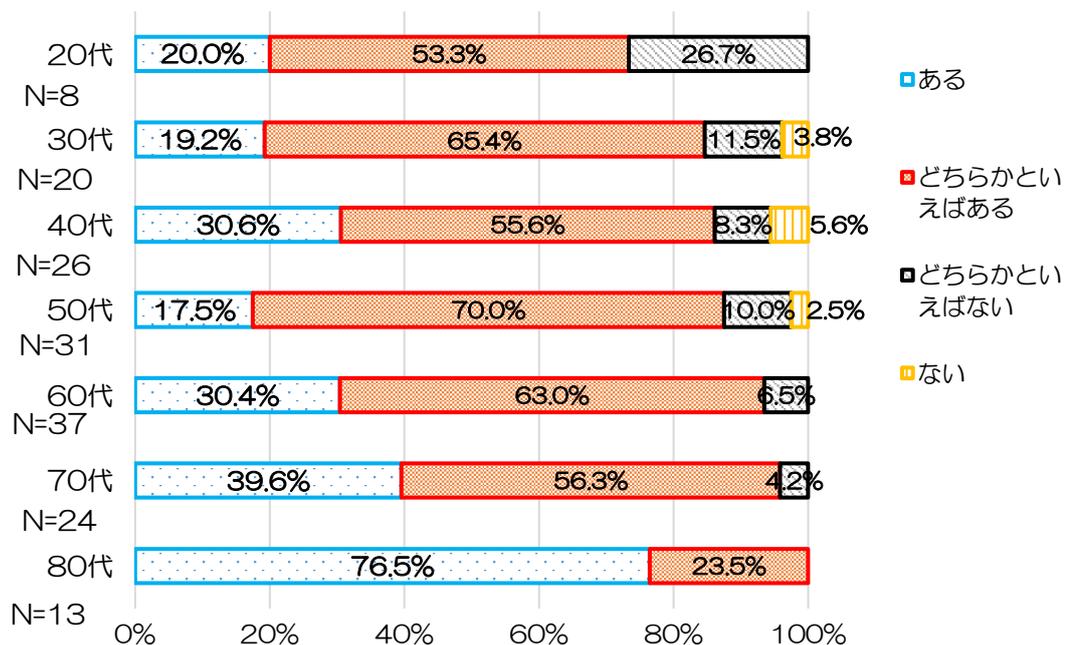
(無回答3人)



〈性別割合〉



〈年齢別割合〉



市政運営に興味や関心が「どちらかといえばある」と回答した人が約半数の 58.3% で、「ある」・「どちらかといえばある」を合計すると 89.9% と高い割合でした。多くの人が市政運営に興味や関心を持っていることが分かりました。

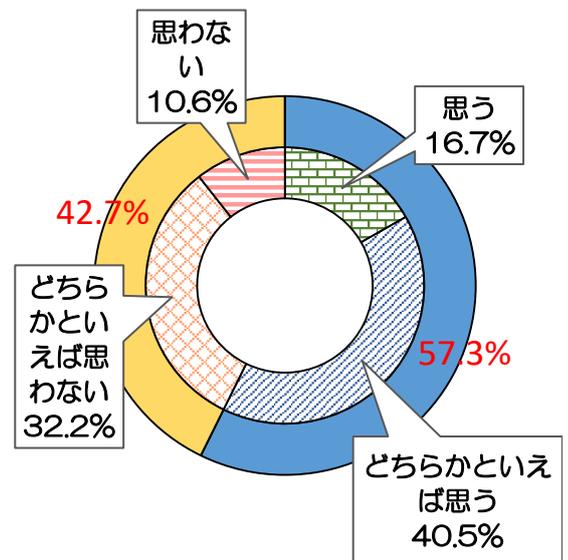
また、年齢別で見たときに、20代では市政運営に興味や関心が「どちらかといえはない」と回答した人が 26.7% いるものの、80代では「ある」・「どちらかといえばある」の合計が 100% となっており、年代が高い方が、市政運営への興味・関心が総じて高いことが分かりました。

問 22 長崎市の市政運営に参画したいと思いますか。(参画している人も含みます。)(当てはまるものを1つ回答)

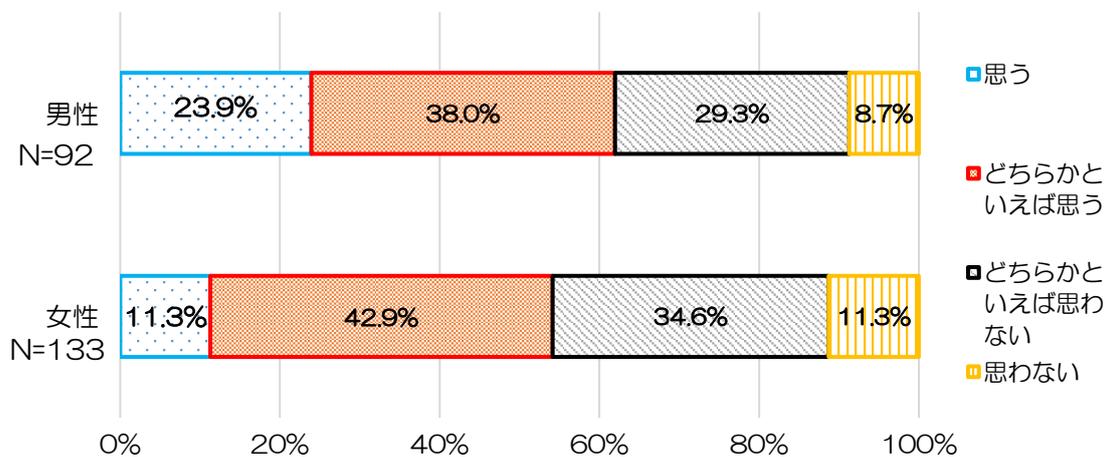
例) 自治会やNPOなどでの市のまちづくり活動への参加/審議会等の市民公募委員になる/消防団での活動/パブリックコメントへの意見の応募/地域での意見交換会やワークショップへの参加/イベントなどへボランティアでの参加/防災サポーターや認知症サポーターなどの各種サポーター活動

選択肢	回答者数	割合 (%)
思う	38	16.7
どちらかといえば思う	92	40.5
どちらかといえば思わない	73	32.2
思わない	24	10.6
合計	227	100.0

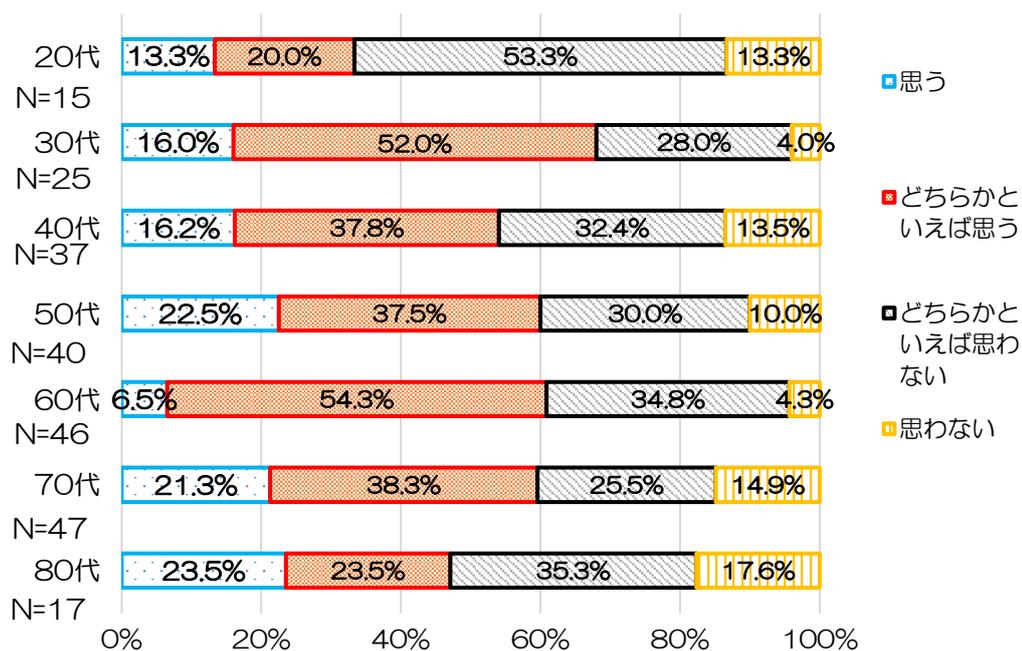
(無回答4人)



〈性別割合〉



〈年齢別割合〉



市政運営に参画したいと「思う」・「どちらかといえば思う」と回答した人の合計は57.3%で、「思わない」・「どちらかといえば思わない」と回答した人の合計42.7%と、思っている人の割合がやや高い結果となりました。

【参考】「問 21 長崎市の市政運営に興味や関心がありますか」と「問 22 長崎市の市政運営に参画したいと思いますか」のクロス集計

		市政運営に参画したいと思う				合計		
		思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	回答者数	割合 (%)	
市政に興味や関心がある	ある	27	27	8	7	69	30.8	89.7
	どちらかといえばある	11	56	55	10	132	58.9	
	どちらかといえばない	0	6	10	3	19	8.5	10.3
	ない	0	0	0	4	4	1.8	
合計	回答者数	38	89	73	24	224	100	
	割合 (%)	17.0	39.7	32.6	10.7	100		
		56.7		43.3				

分類	割合
市政に興味や関心があり、市政運営に参画したいと思っている人	54.0%
市政に興味や関心があるものの、市政運営に参画したいと思わない人	35.7%
市政に興味や関心がないものの、市政運営に参画したいと思っている人	2.7%
市政に興味や関心がなく、市政運営に参画したいと思わない人	7.6%
合計	100%

注：上記の「分類」については、次のとおり集計しています。

- ・「市政に興味や関心がある」
＝問 21 で市政に興味や関心が「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した人の合計
- ・「市政に興味や関心がない」
＝問 21 で市政に興味や関心が「ない」又は「どちらかといえばない」と回答した人の合計
- ・「市政運営に参画したいと思う」
＝問 22 で市政運営に参画したいと「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した人の合計

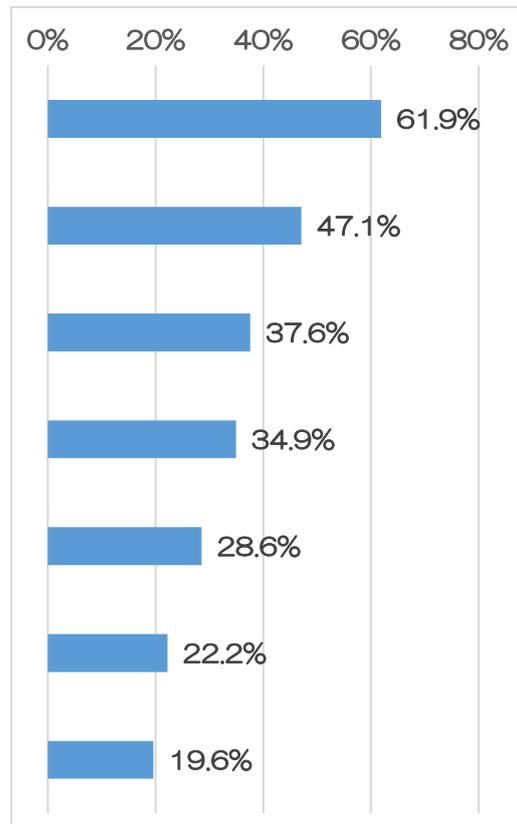
- 「市政運営に参画したいと思わない」
=問 22 で市政運営に参画したいと「思わない」又は「どちらかといえ
ば思わない」と回答した人の合計

「市政に興味や関心があり、市政運営に参画したいと思っている人」は 54.0%で
半数の人が市政運営に積極的な姿勢を持っていることが分かりました。

一方で、「市政に興味や関心があるものの、市政運営に参画したいと思わない人」
が 35.7%で、市政運営に参画することに対して、抵抗感を感じている人が多くいる
ことが分かりました。

問 23 広報広聴課が所管している次の広聴制度について知っていますか。
 あてはまるものをお選びください（複数回答可）

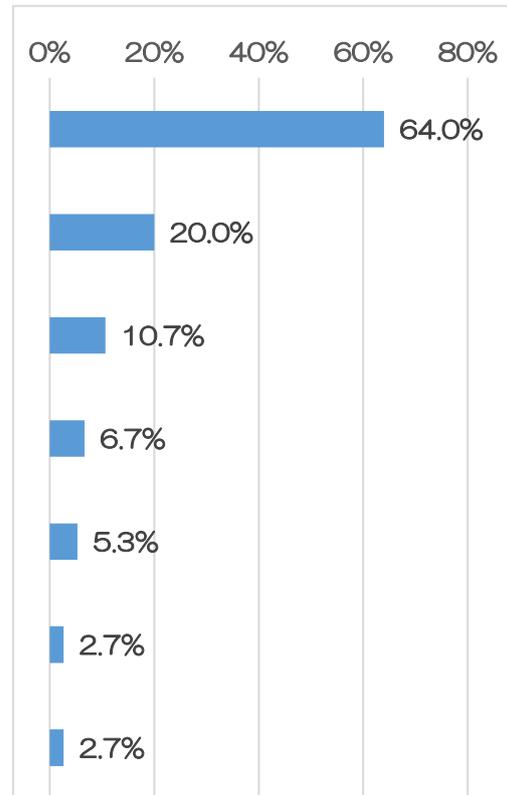
選択肢	回答数	割合
あじさいコール	117	61.9%
広報紙へのお便り	89	47.1%
ご意見箱	71	37.6%
市政への提案	66	34.9%
陳情・要望	54	28.6%
市民と市長の地域みらい懇談会	42	22.2%
パブリック・コメント	37	19.6%



（回答者数 189 人、有効回答数 476）

問 24 広報広聴課が所管している次の広聴制度について利用又は参加したことがありますか。あてはまるものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	回答数	割合
あじさいコール	48	64.0%
広報紙へのお便り	15	20.0%
市政への提案	8	10.7%
陳情・要望	5	6.7%
市民と市長の地域みらい懇談会	4	5.3%
パブリック・コメント	2	2.7%
ご意見箱	2	2.7%

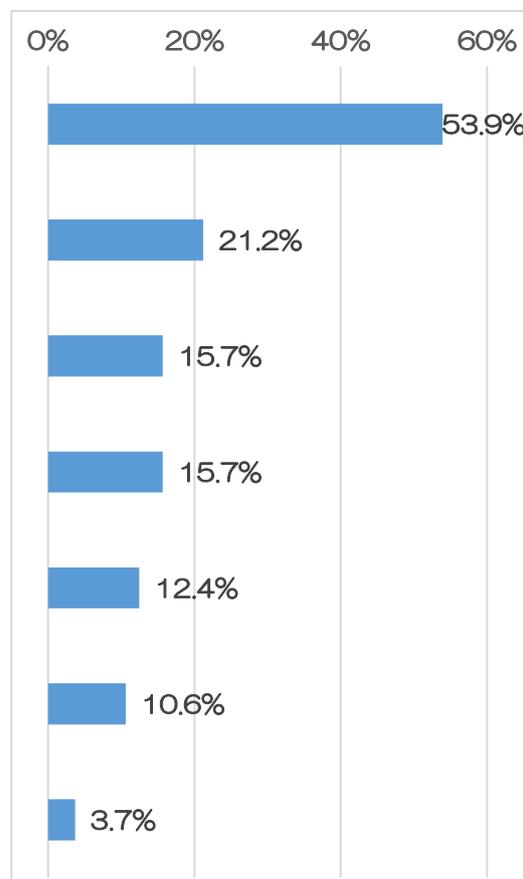


（回答者数 75 人、有効回答数 84）

広報広聴課が所管している広聴制度について「知っている」、「利用又は参加したことがある」とともに、あじさいコールが最も割合が高く、一番親しまれている広聴手段であることがわかりました。また、何らかの広聴制度を知っている方が 189 人であるのに対し、利用又は参加したことがある方は 75 人と、実際の利用や参加には至っていない方が多くいることがわかりました。

問 25 市政に関して意見や要望がある場合に、どのような手段を選びますか。あてはまるものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	回答数	割合
電話、文書、メール等で担当課へ伝える	117	53.9%
自治会を通じて伝える	46	21.2%
「市政への提案」制度を活用して伝える	34	15.7%
市議会議員を通して伝える	34	15.7%
直接、担当課を訪問して伝える	27	12.4%
伝えるつもりはない	23	10.6%
その他	8	3.7%



（回答者数 217 人、有効回答 289）

※「その他」の意見

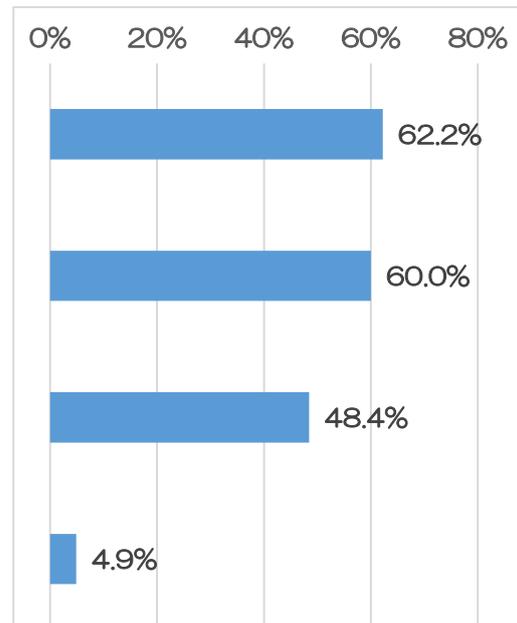
- ・伝えて改善されたり、ちゃんと動いてくれると思えば伝える
- ・1人の意見は届かないと思う
- ・手段がわからない
- ・伝えることに抵抗がある
- ・伝える方法がわからない。方法が分かれば、意見・要望をつたえてみたい

など

「電話、文書、メール等で担当課へ伝える」が53.9%と高い割合となっており、何らかの手段で、所管する担当課へ直接伝えようとする方が多いことがわかりました。また、「その他」の意見の中には、意見や要望を市へ伝える手段が分からなかったり抵抗感を持っている方がいることがわかりました。

問 26 市民の声を市政に反映していくためには、どのような取組みを充実させていくべきだと思いますか。あてはまるものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	回答数	割合
市民の声を聴くための手段を拡充する	140	62.2%
意見や要望に対する対応結果を広く公表する	135	60.0%
市の施策に関する情報を広く周知する	109	48.4%
その他	11	4.9%



（回答者数 225 人、有効回答数 395）

※「その他」の意見

- ・今まで古い概念を捨てて長崎の活性化に力を入れて頂きたい。若い世代が新しい風を吹き込んで古い世代はサポートして欲しい。いつまでも、世代の方々の言いなりでは長崎は 100 年経っても変わらない。福岡を見習ってほしいと強く思う。町自体が中途半端。都会的な考え方が必要！！

- ・市議の方や職員の方の取組み方だと思います
- ・モニターになって初めて広報広聴課というセクションの活動に少し理解ができました。市民がもっと市政に関心を持たねばなりません、自治会などの集会にできるだけ職員が出向き情報発信してほしいと思います。
- ・多くの市民が集まる場所での聞き取りや意見箱の設置。ランダムな企業・団体などへの訪問
- ・大型商業施設などで出張広聴会などを開催する
- ・町内会の集まりで意見を聞く。鉄橋の上で意見箱を投入させる。長崎は立派な政治家が長崎のために頑張る人がいないなど意見を聞く
- ・市民がメッセージを伝えやすい社会作りをもっとしてほしい
- ・興味がなく手段が思い浮かばない
- ・若者や子育て向け有益情報の発信
- ・声を伝えるための手段を複数準備し、ネット、SNSなどを通じて、広く公知する。

など

市民の声を市政に反映していくための取組みとして、「市民の声を聴くための手段を拡充する（62.2%）」、「意見や要望に対する対応結果を広く公表する（60.0%）」、「市の施策に関する情報を広く周知する（48.4%）」の3つの選択肢に大きな差はなく、これらの取組みについて複合的に実施していく必要があることがわかりました。